

夢 童

菅波 茂

11月25日から2日間、ポリビアの第2の都市であるサンタクルス市で第1回アメリカ地域会議を開催した。ポリビア、カナダ、ホンジュラス、ペルー、ブラジルそして岡山の本部計6カ国から参加。コロンビア支部は航空事情で不参加だった。

初めてお会いするメンバーも、不条理に苦しむ人たちのため「救える命があればどこへでも」のスローガンの下、苦勞を共にした同志である。2日間かけて米国経由で岡山から来た疲れも吹き飛んで、中南米における緊急救援体制の強化や貧困に対する社会開発プログラムの実施について討議した。

中南米でこのような会議を開催することなど、84年にAMD Aを設立した時には予想

もしなかった。「命の普遍性」は世界の共通語であるとしみじみ思った。

サンタクルス市で第1回アメリカ地域会議を開催した一番の理由は、ポリビア支部を開設してくれた故フォイアニニ医師の墓参りだった。青い芝生に埋葬されている彼の墓前で、彼の冥福と共にAMD Aを見守ってくれるように祈った時に、走灯馬のように次から次へと記憶がよみがえった。

彼の家は副大統領を輩出したイタリヤ系移民の名門である。彼は94年から始まった第1回おかやま国際貢献NGOサミットに参加し、97年にポリビア支部を開設。AMD Aインターナショナルでは副代表として私を支えてくれた。

以後、98年のハリケーン「ミッチ」被災地などに医療チームを派遣。ポリビア国内ではATLS(外傷救急救命研修)・PHTS(入院搬送)の中前

第1回アメリカ地域会議

外傷救急救命研修事業を積極的に普及推進。特筆すべきは、AMD Aインターナショナルの会議を多種多様な小話で明るくしてくれ、ユーモア教授と命名されたことだろ

う。彼亡き後のポリビア支部は奥様を支部長、医療センター長のゴンザロ・オストリア医師を副支部長として、AMD Aインターナショナルの活動を推進。アルゼンチンやチリなどでAMD A支部設立に奔走してくれる予定である。彼を支えた奥様とは初めてお会いしたが、旧知の友の感じがした。涙、涙であった。

オストリア医師は物事の組み立てをきっちりするスペイクが、AMD Aにとって不可欠な活動場所になりつつある。

3年後の09年はAMD A発足25年目。いよいよ「西のシユネーブ、東の岡山」の時代である。皆様方のご支援もよろしくお願い申し上げます。

（AMD A代表）